

愛知大学 3つのポリシー (2021～2023 年度)

■大学院 国際コミュニケーション研究科 国際コミュニケーション専攻

教育研究上の目的
大学院学則第2条（目的） 本大学に設置する大学院(以下「本大学院」という。)は、課程の目的に応じ、学理及びその応用を教授・研究し、学術の深奥を究めて、人類社会の発展に貢献しうる人材を養成するとともに文化の進展に寄与することを目的とする。
大学院学則第6条の2（研究科及び専攻） 修士課程においては、国際的にも国内的にもグローバル化が進行し、同時にローカルな視点も求められる現代の状況に活躍できる人材の育成を目的とする。その方法としては、次の3領域を有機的に関連させることに特色がある。第一は、英語と日本語に関する専門知識と運用能力に重点を置いた言語コミュニケーション研究。第二は、国際関係分野での国際関係論、国際ビジネスと異文化理解に関する研究。第三は、文化人類学・民俗学の視点を取り入れた多文化間比較研究である。
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
【修士課程】 国際コミュニケーション研究科修士課程の教育研究上の目的は、グローバル化が進行すると同時にローカルな視点も求められる国際的な環境で活躍できる人材の育成にあります。その実現のために、愛知大学学位規程に基づき、以下の条件を満たした学生に学位を授与します。 (1) 国際コミュニケーションの学問領域に関する高度な専門知識を有している。 (2) 専攻領域・テーマにおいて研究上の独創性を備えている。 (3) 豊かな国際感覚を通じて、自ら課題を発見し分析・解決する能力を有している。 (4) 修士課程に2年以上在籍し、32単位以上を習得し、かつ修士論文の指導と論文審査・口頭試問に合格している。
教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
【修士課程】 国際コミュニケーション研究科修士課程では、国際的にも国内的にもグローバル化が進行し、同時にローカルな視点も求められる現代の状況にあって、そのなかで活躍できる人材の育成をめざします。その方法として、次の3領域を有機的に関連させた教育を行います。第1は、英語と日本語に関する専門知識とその運用能力に重点を置いた言語コミュニケーション研究。第2は、国際関係分野での国際関係論、国際ビジネスと異文化理解に関する研究。第3は、文化人類学・民俗学の視点を取り入れた多文化間比較研究です。学生は3領域のいずれかに所属して専門的な研究を行うとともに、他の2領域にも関りながら幅広い研究をめざします。 (1) 各専攻領域に関する専門的な知識を獲得し、主体的な研究態度が養えるよう、豊富かつ系統的な授業科目を設置します。 (2) 各専攻領域における専門性を深めるとともに、他領域の研究と有機的に関する研究がなし得るよう、全領域研究の共通基盤としての必修科目を設置します。 (3) 他領域の研究と有機的に関する研究がなし得るよう、主研究領域以外の2領域からそれぞれ1科目(合計2科目4単位)を修得することを義務づけます。 (4) 各専攻領域において自由かつ系統的な研究・教育を可能とする複数教員指導体制を採用します。 (5) 現場体験を通して視野の広い見識が得られるよう、フィールドワーク科目を設置します。
入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）
【修士課程】 国際コミュニケーション研究科修士課程では、国際的にも国内的にもグローバル化が進行し、同時にローカルな視点も求められる現代の状況にあって、そのなかで活躍できる人材の育成を目指します。 こうした観点から国際コミュニケーション研究科で求める学生像はつぎの通りです。 (1) 英語文献学、英語学、英語教育について研究し、それらの専門的な能力を活かした仕事に携わりたいと考えている人。 (2) 日本語、日本語教育について研究し、それらの専門的な能力を活かした仕事に携わりたいと考えている人。 (3) 社会科学的思考に関心があり、国際関係の仕事に就きたいと考えている人。 (4) 国際商取引、商事仲裁など国際ビジネスに関心をもって人。 (5) 異文化、多文化共生、国際コミュニケーションについて関心がある人。